

平成31年度 球美中学校各教科シラバス

教科名	中学1年 家庭科
教科担当	高橋 翔太
教科書名	新しい技術・家庭科 家庭分野 自立と共生を目指して (東京書籍)
副教材名	家庭分野パート1 (沖縄学販)

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒(本校教育目標：知の側面)をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中生徒のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。

球美中学校の各教科担当(教科の先生)は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の目標 → 目標を達成するための授業・活動 → 今日の目標が達成できたかまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。

教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 家庭科の学習について

学習のねらい	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をよりよくしようとする能力と態度を伸ばす。
授業のすすめ方	(1) 授業は、プリントやノートの板書を中心に行います。 (2) 電子黒板等を用いて、視覚的に双方向の授業を展開します。 (3) ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、お互いの意見や考えを交流させながら、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。
学習上の留意点	(1) 間違いを恐れずに積極的に自分の考えなどを話すこと。また、場面や状況にふさわしい行動ができるようにする。 (2) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。 (3) 事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。 (4) 実習に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

2 評価について

評価方法	(1) 成績は、毎学期の定期テストや活動状況の観察・作品の評価・発表・学習ノート・学習プリント・忘れ物状況・提出物状況・授業態度などを総合して評価します。 (2) 評価の観点は、「関心・意欲・態度」学習内容に関心を持ち進んで取り組む。提出物は完成させ期限を守って提出する。「創意工夫する能力」自分の生活や作品に関する課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫・創造する。「生活の技能」生活に必要な基礎的な技術を身に付け、その技術を安全かつ適切に活用する。「知識・理解」生活や技術に関する基礎的な事柄や生活と技術との関わりについて理解するです。 (3) 長期休業(夏期・冬期・春期など)を中心に課題を出します。
定期テスト	(1) 授業で扱った事項、および試験前に指定した範囲から出題されます。 (2) 試験範囲は、定期テスト1週間前までに発表します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
4月	第1時 教科ガイダンス ※シラバスを用いて学習内容や評価について説明する。	家庭科科シラバス
5月	1. 私たちと食生活 【1章：食生活と栄養】	電子黒板 教科書 家庭分野パート1 プリント
6月	2. 栄養と健康 ・栄養と栄養素を知る ・食品の栄養素を調べる	調理器具
8月	3. 食材にこだわる 【2章：献立作りと食品の選択】 ・生鮮食品について知る ・加工食品と表示 ・食品添加物の実験	6月28日 期末テスト
9月	4. 1日の献立づくり ・食事の計画をたてる	
10月	5. 食生活を自分の手で 【3章：調理と食文化】 調理実習 ・魚を調理しよう ムニエル ・肉を調理しよう ハンバーグ ・野菜を調理しよう さつま汁 まとめ	

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る1分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。(無言挙手)
- ・今日の授業では何を学習するのかを確認し、目的意識をもって臨みましょう。
- ・わかったことや、自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・わからないことを教え合ったり、みんなの意見を聞いて考えを深めるなど、他の人とも協力して学習に取り組みましょう。
- ・ノートは黒板に書かれたことと、自分で気づいたことや調べたことを工夫してまとめましょう。
- ・学習課題をじっくり考え、わかったこと、課題を解決できたことに自信を持ちましょう。
- ・ノートやワークなどの提出物は期日を守りましょう。
- ・実習等では、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

5 家庭学習のアドバイス

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活をふり返る機会とし、より良くする手だてを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビなどからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。

平成31年度 球美中学校各教科シラバス

教科名	中学2年 家庭科
教科担当	高橋 翔太
教科書名	新しい技術・家庭科 家庭分野 自立と共生を目指して (東京書籍)
副教材名	家庭分野パート1 (沖縄学販)

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒(本校教育目標：知の側面)をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中生徒のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。
 球美中学校の各教科担当(教科の先生)は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の日標→目標を達成するための授業・活動→今日の日標が達成できたかまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。
 生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。
 教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 家庭科の学習について

学習のねらい	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をよりよくしようとする能力と態度を伸ばす。
授業のすすめ方	(1) 授業は、プリントやノートの板書を中心に行います。 (2) 電子黒板等を用いて、視覚的に双方向の授業を展開します。 (3) ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、お互いの意見や考えを交流させながら、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。
学習上の留意点	(1) 間違いを恐れずに積極的に自分の考えなどを話すこと。また、場面や状況にふさわしい行動ができるようにする。 (2) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。 (3) 事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。 (4) 実習に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

2 評価について

評価方法	(1) 成績は、毎学期の定期テストや活動状況の観察・作品の評価・発表・学習ノート・学習プリント・忘れ物状況・提出物状況・授業態度などを総合して評価します。 (2) 評価の観点は、「関心・意欲・態度」学習内容に関心をもち進んで取り組む。提出物は完成させ期限を守って提出する。「創意工夫する能力」自分の生活や作品に関する課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫・創造する。「生活の技能」生活に必要な基礎的な技術を身に付け、その技術を安全かつ適切に活用する。「知識・理解」生活や技術に関する基礎的な事柄や生活と技術との関わりについて理解するです。 (3) 長期休業(夏期・冬期・春期など)を中心に課題を出します。
定期テスト	<input type="checkbox"/> 授業で扱った事項、および試験前に指定した範囲から出題されます。 <input type="checkbox"/> 試験範囲は、定期テスト1週間前までに発表します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
10月	第1時 教科ガイダンス ※シラバスを用いて学習内容や評価について説明する。	家庭科科シラバス
11月	衣生活 【1章:衣生活と自立】 1. 自分らしく着よう ・コーディネートしてみよう	電子黒板 教科書 家庭分野パート1 家庭分野パート2 プリント
12月	2. 衣服の活用と選択 ・表示や取り扱いについて知ろう	調理器具
1月	3. 日常着の手入れ 実習 染み抜き・アイロン・補修のしかたを知ろう	裁縫道具
2月	4. 自分で作品を作ろう ・衣服の構成を知ろう ・簡単な作品(裁縫)を作ろう	11月20日(水) 期末テスト
3月	採寸・型紙の選択・布の裁断・本縫い	2月14日(金) 学年末テスト
	住生活 【2章:住生活と自立】 【3章:生活を豊かにするために】 気持ち良く住もう ・住まいについて考えよう ・健康で快適な室内環境を整えよう ・生活を豊かにするために まとめ	

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る1分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。(無言挙手)
- ・今日の授業では何を学習するのかを確認し、目的意識をもって臨みましょう。
- ・わかったことや、自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・わからないことを教え合ったり、みんなの意見を聞いて考えを深めるなど、他の人も協力して学習に取り組みましょう。
- ・ノートは黒板に書かれたことと、自分で気づいたことや調べたことを工夫してまとめましょう。
- ・学習課題をじっくり考え、わかったこと、課題を解決できたことに自信を持ちましょう。
- ・ノートやワークなどの提出物は期日を守りましょう。
- ・実習等では、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

5 家庭学習のアドバイス

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活をふり返る機会とし、より良くする手だてを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビなどからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。

平成31年度 球美中学校各教科シラバス

教科名	中学3年 家庭科
教科担当	高橋 翔太
教科書名	新しい技術・家庭科 家庭分野 自立と共生を目指して (東京書籍)
副教材名	家庭分野パート2 (沖縄学販)

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒（本校教育目標：知の側面）をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中生徒のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。

球美中学校の各教科担当（教科の先生）は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の目標 → 目標を達成するための授業・活動 → 今日の目標が達成できたかまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動(思考・判断・表現等)」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力(=学びに向かう力)」を育成することにつながります。

教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 家庭科の学習について

学習のねらい	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をよりよくしようとする能力と態度を伸ばす。
授業のすすめ方	(1) 授業は、プリントやノートの板書を中心に行います。 (2) 電子黒板等を用いて、視覚的に双方向の授業を展開します。 (3) ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、お互いの意見や考えを交流させながら、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。
学習上の留意点	(1) 間違いを恐れずに積極的に自分の考えなどを話すこと。また、場面や状況にふさわしい行動ができるようにする。 (2) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。 (3) 事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。 (4) 実習に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

2 評価について

評価方法	(1) 成績は、毎学期の定期テストや活動状況の観察・作品の評価・発表・学習ノート・学習プリント・忘れ物状況・提出物状況・授業態度などを総合して評価します。 (2) 評価の観点は、「関心・意欲・態度」学習内容に関心をもち進んで取り組む。提出物は完成させ期限を守って提出する。「創意工夫する能力」自分の生活や作品に関する課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫・創造する。「生活の技能」生活に必要な基礎的な技術を身に付け、その技術を安全かつ適切に活用する。「知識・理解」生活や技術に関する基礎的な事柄や生活と技術との関わりについて理解するです。 (3) 長期休業（夏期・冬期・春期など）を中心に課題を出します。
定期テスト	(1) 授業で扱った事項、および試験前に指定した範囲から出題されます。 (2) 試験範囲は、定期テスト1週間前までに発表します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
9月	第1時 教科ガイダンス ※シラバスを用いて学習内容や評価について説明する。	家庭科科シラバス
10月	1. 中学生になるまで	電子黒板 教科書 家庭分野パート2 プリント
11月	2. わたしと家庭生活 3. 家庭生活と地域	調理器具
12月	4. 幼児の成長 ・心身の発達 ・幼児と遊び	11月20日（水）期末テスト
1月	5. 実習幼児の喜ぶものをつくろう ・おもちゃおやつ等	
2月	・3年間のまとめ	
3月	6. 調理実習	

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る1分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。(無言挙手)
- ・今日の授業では何を学習するのかを確認し、目的意識をもって臨みましょう。
- ・わかったことや、自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・わからないことを教え合ったり、みんなの意見を聞いて考えを深めるなど、他の人とも協力して学習に取り組みましょう。
- ・ノートは黒板に書かれたことと、自分で気づいたことや調べたことを工夫してまとめましょう。
- ・学習課題をじっくり考え、わかったこと、課題を解決できたことに自信を持ちましょう。
- ・ノートやワークなどの提出物は期日を守りましょう。
- ・実習等では、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

5 家庭学習のアドバイス

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活をふり返る機会とし、より良くする手だてを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビなどからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。